小さなヒヤリを甘くみることなかれ！

～～ 森を守るための究極とは ～～

「安心・安全でより良い活動を実践するという高いモチベーションを持つ事」

理事長　山本 恵由美

多機能を持つ森林の様々な問題を、少しでも改善したいと立ち上げた当会は、森の手入れを基本として様々な団体、企業と関わり、環境教育、材の有効利用など多岐にわたる活動を展開して課題解決に取り組んでおり、今後も続けていく使命を担っています！

1997 年の有史以来、活動の機会を多く重ねる中にあって、大きな事故もなく組織をつくり上げてきましたが、近年、ヒヤリハットの報告が増えており、改めて気を引き締め「森づくり活動は危険であり、多くのリスクを持ち合わせている」との共通認識が必要だと感じています。

【組織全体でのエラー防止】

■自然を相手にする私たちの活動は、列車や車など機械の安全性をカバーする自動制御システムには頼ることはできず、必ず人の力で安全性を確保しなくてはなりません。
ヒューマンエラーは人が起こすもので、小さなエラーから次第に大きく波及して、複数のヒューマンエラーが関わって、事故が発生することが判っています。

【ヒューマンエラーの分類】

① 思い違い、取り違いなどの勘違い(思い込みによるもの)
② うっかり忘れてしまう、失念
③ 能力不足(無知)、経験不足
④ あせり、パニック状態
⑤ 慣れ、悪習慣
⑥ 違反行為(省略行動)
⑦ 疲労、疾病による意識の低下や身体機能の低下

※①②は本人がリスクを認識していない　③以下はリスクを認識
②⑤⑥はある程度経験値が高い指導者に見られる

※一人のヒューマンエラーが事故につながらないためには、活動環境を改善し、組織全体で要因を排除して「エラー発生につながりやすい行動を、エラー発生につながりにくい行動」にしていくことが大切です。

【安全システムとして】

■メインの定例会では 5 つの班が輪番制で担当し、班長にはニーズや活動フィールドに合わせて目的、体制、整備の活動計画書から報告書までを作成してもらっています。

当日は「振り分けられた各作業班の役割をリーダー同士が全体で共有する」⇒「活動班ごとに施業の周知を丁寧に」⇒「道具の確認と準備」⇒「リーダーと安全監視員の元で活動開始」
⇒「反省会でヒヤリハットの確認」⇒「課題が生じれば役員会で検証し予防体制を協議。」

【システムを生かすのは人】

■なにより重要なことは、関係者全員が『安心・安全でより良い活動を実践するという高いモチベーション』を持つこと、その責任がヒューマンエラーの防止には必要です。様々な思いで入会されたとしても、こればかりは必ず同じ方向を向いていなければなりません！

【参考文献：自然体験活動のリスクマネジメント】